

【「ごめんシャモ研究会」と「軽トラ市」の取り組みについて】

A：日頃の取り組みとして、まず「ごめんシャモ研究会」のことについて説明させていただきます。南国市は日本屈指の多品種の野菜を作るところであり、龍馬や長曾我部元親、紀貫之などのゆかりのところがあつたりと誇るべき歴史もあり、龍馬の墓のところではシャモ鍋を振る舞っていたという歴史がありまして、「南国をシャモで元気にするかよ」を合い言葉に、シャモ農家を募り、料理を南国市内で提供してくれるところを探し、南国市へ来て食べてもらうこと、また、県外の土佐ゆかりのお店でもごめんシャモを使った料理を出してもらうことによって、南国市を元気にしようとして取り組んできました。

また「軽トラ市」は、どこの商店街も一緒かと思いますが、ごめん町商店街もシャッター一街で、少しでも昔の活気を取り戻したいということで、岩手県雫石で行われている市を参考に、軽トラ市というお金をかけず人を呼べる仕組みに取り組んでいます。

課題としては、シャモ研究会のほうは、自分たちは商売がメインで、鳥を飼ったことがなく、畜産という技術的な知識も何もなかったもので、今、防疫や飼料について畜産試験場や家畜保健衛生所に協力してもらって取り組んでいます。

軽トラ市は、農家の方となかなかコミュニケーションがとれず、ちょっと野菜の品が少ないという状況です。この取り組みで商店街のシャッターが1店舗でも多く開いてくれたらと思っているんですけど、なかなかうまくいってない状況です。

今後の取り組みとしては、南国市は高知県第二の都市でありながら実際は寂れている状態なので、自分たちの取り組みで少しでも活気のあるまちへ変えていきたいと思っています。またこの取り組みが子どもたちへ誇れるものになっていければなと思っています。

知事：シャモ鍋すごかったですよね。全国鍋合戦で優勝してナンバー1の鍋奉行さんですよ。これは2010年2月で、その頃はちょうど龍馬伝が放送されたばかりで、いきなり日本一でしたからね。実はいきなり日本一というのは去年2つあるんです。このシャモ鍋とあともう1つ、嶺北のお米「土佐天空の郷」がお米コンクールで日本一だったんです。大いに勇気をいただきました。地域アクションプランにも加わっていただいて取り組みを進めていただいているところですが、シャモ鍋自体おいしいというのもありますし、なんで南国でシャモ鍋なのかという話のときに、やっぱり物語がある話だと思いますし、またそういうところも審査で評価されて日本一になったという実績もおありなわけですからね。

ただ、防疫とかが課題というお話、食品表示のことについても同様で、シャモ鍋をしっかり商品にして、東京で売ると言ったときに、関連する法令の数もたくさんあるんでしょうね。そういうものが足かせとなって、本当に素晴らしい物語と味と元々の素材を持っているのに、それが前に進まないというのがいかにも残念だということになります。そういうことで、例えば産業振興計画の中でも、食品表示の研修会や（東京のアンテナショップの）「まるごと高知」に商品を出していただいたりして、その中でいろいろ見ていただいたりしています。本当の素材を発掘したり、本当の良さというのを作り出すことは、我々で

はとてもじゃないけどできませんが、周辺の部分でネックとなっていて前に進まないようなものを打ち破っていくために、お手伝いさせていただくことがたくさんあると思います。例えば、食品表示の関係ですと、東京の「まるごと高知」に持っていくと、高知では普通に売られていたけど、東京都の基準からすると食品表示がこれではダメという商品が何個もあるんです。それを全部改善していただいて東京で売れるようになったんですが、専門家をアドバイザーに構えるなどして、そういうものを応援したいと思います。

防疫の関係についても、地域アクションプランには1個1個支援チームというのがついていますから、このシャモの関係は畜産試験場などでバックアップさせていただいている形になっているんですけど、是非一緒にやっていきたいと思っています。

あと軽トラ市は、いつもテレビにも報道されるし、本当に素晴らしい取り組みだと思います。シャッター街じゃない商店街は今ありませんが、逆にそういう価値が見出されているところだと思いますので、まず軽トラのような固定費用がかかりにくいところから始めていただいて、（取り組みが進むよう）是非一緒に地域支援企画員も協力させていただきます。高知農業高校も誘っていただいて、本当に感謝を申し上げます。

なお、これは軽トラ市にはあんまり関係ない話かもしれませんが、今、空き店舗対策事業も実施しておりますので、もし使えるところがあれば是非またご活用いただければと思っています。実際にはちょっとした店舗の改装とか、備品の設置などは、わずかな金額では済む話ではないでしょうが、やる気のある方々には、こういう経費的な補助も一定役に立つのかもしれないと考えていますので、ひとつご活用いただければと思います。